年　組　番　名前

教材１－Ａ－(2)　古代から中世までの社会の様子

次の（ア）～（コ）の説明はどの時代の様子を示したものかを、【表】の中の①～⑨から選び、記号で答えなさい。

【表】

①縄文	②弥生	③古墳	④飛鳥	⑤奈良	⑥平安	⑦鎌倉	⑧南北朝	⑨室町

【社会の様子】

（ア）各地の武士が北朝と南朝に分かれて戦い、約 60 年にわたって全国的な内乱が続いた。

（イ）貴族が力を伸ばし、藤原氏が自分の娘を天皇のきさきとし、その子を次の天皇にたてることで勢力を伸ばした。

（ウ）中・小型の動物や魚・貝、ドングリを主な食料とし、土器を煮炊きに使い、同じ場所にむらをつくって暮らすようになった。

（エ）新しい都として平城京がつくられ、天皇を中心に律令に基づいた政治が行われたが、重い負担により逃亡する農民が現れ、公地公民の原則が崩れていった。

（オ）平氏を滅ぼした 源 頼朝が幕府を開いて武家政権を立て、武士による政治が行われるようになった。

（カ）稲作が伝わると、土地や水をめぐる争いから、むら同士の戦いがおこるようになり、むらの指導者の中には、戦いで周りのむらを従えて小さな国をつくる者も現れた。

（キ）冠位十二階や十七条の憲法を定めるなど、天皇を中心とする国家の仕組みを中国や朝鮮にならって整えようとした。

（ク）大王を中心に、近畿地方の有力な豪族で構成された大和朝廷が、東北地方南部から九州地方にかけて支配を広げていった。

（ケ）有力な守護大名が力を持つようになり、幕府の力が地方まで及ばなくなる一方、産業や商業の発達を背景に、都市や農村で自治が行われるようになった。

（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）	（オ）

（カ）	（キ）	（ク）	（ケ）